

ヘルスセキュリティセンター

Center for Health Security

☆ 2024 年度設立。2025 年入学より当センター内の分野(研究室)にて院生を受入れます。

健康危機管理の研究・人材育成体制を順次強化していきます。

☆ 突発的な自然災害、感染症流行、静かに迫る社会基盤脆弱化等、様々な健康危機の課題解決に貢献したい人を大募集。

☆ 詳細は、お問い合わせください。⇒ chs@umin.ac.jp

健康危機管理
関心ある人募集中!

当センターは、自然災害、大事故災害、感染症流行、静かに迫る社会基盤脆弱化など、様々な危機事象に対し人々の健康を守る「ヘルスセキュリティ」の研究開発、人材育成、社会づくりを行う。

【1】 様々な危機から人々の健康を守るために、関連領域融合してエビデンス・理論・しくみを生み、高度専門人材を育成し、効果的な施策・戦略の実装へとつなげ、危機への対応力、復興力、準備力の強化に貢献する。

【2】 健康危機に関する課題解決のために、当

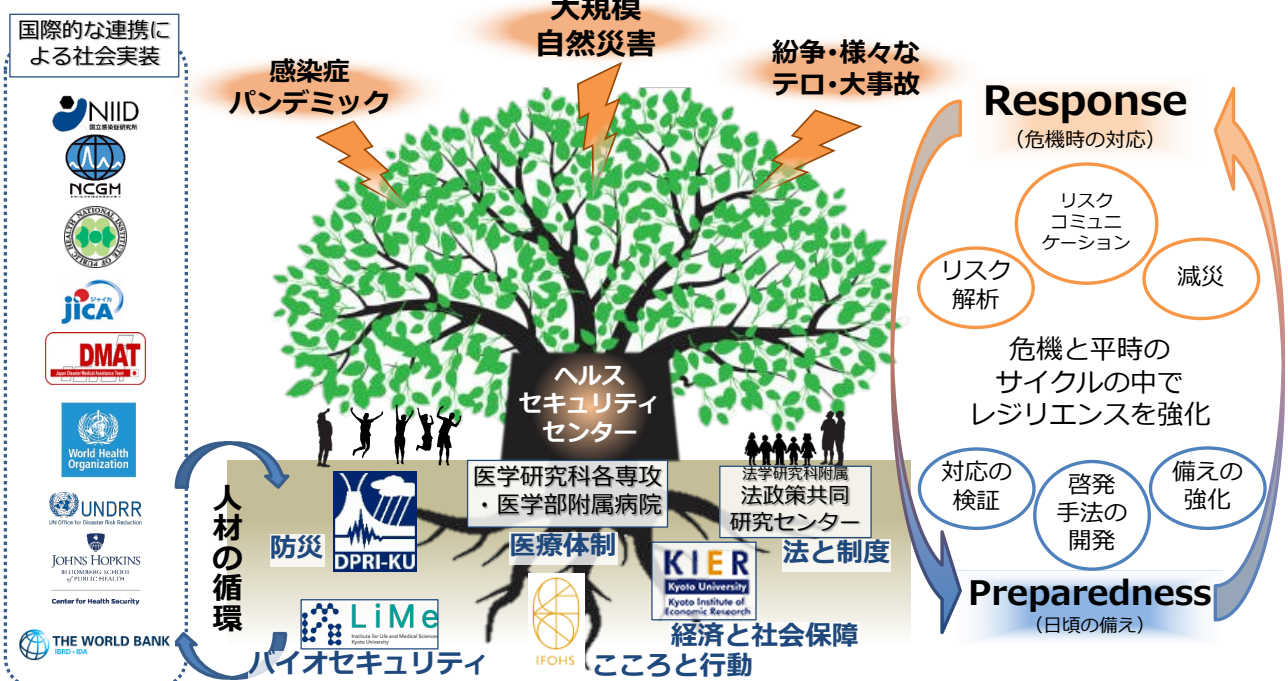
センターが、領域を超えて全学の知と技術が集うプラットフォームとなり、医学研究科・医学部附属病院、防災研究所、法学研究科、経済研究所、人と社会の未来研究院、医生物学研究所、ほか関係部局の協働を推進する。

【3】 国内外の政策・実践の有力機関と人事交流・協働を強化し、人材育成と研究開発・実践のネットワークのハブ機能を高め、健康危機発生時の緊急対応、避難生活支援、支援者支援、復興の推進、備え・事前計画の強化、社会のレジリエンスの強化というサイクルに一貫して取り組む。

【専任教員、兼任教員 (医学研究科、順不同)】 社会健康医学：今中雄一(医療システム・医療経済)、西浦博(感染症危機管理・数理モデル)・・・以上専任、近藤尚己(社会疫学)、石見拓(予防医療・救急蘇生)、中山健夫(健康情報・疫学)、臨床医学：大鶴繁(救急災害医療)、長尾美紀(感染制御・検査学)、松村由美(医療安全管理)、加藤源太(救急・医療管理)、基礎医学：中川一路(微生物感染症学)、上野英樹(ヒト免疫学・ワクチン開発)、人間健康科学：青山朋樹(臨床研究開発学)、塩見美沙(地域健康創造看護学)。さらに新規教員 参加予定

医学研究科附属 ヘルスセキュリティセンター

想定を超えた健康危機から人々の健康を守るために
組織連携に基づく研究・人材育成・社会貢献拠点を構築する



【世界の拠点へ】 健康危機管理の研究領域は、世界を見渡しても発展途上にあり、米 JHU の CHS を例外として世界の School of Public Health の中でもしっかりと位置付けられておらず、十分に体系化されているとは言い難い現状にある。

当センターは、健康危機管理に関連するこれまでの個々の取組を礎として学内・学外で連携・協働し新たな進化を創出する。

即ち、当センターを基盤として公衆衛生学・医学、防災学、法政策研究、社会科学、生命科学等の様々な領域が自在に共同・融合し課題解決にあたる。そして、健康危機管理において、日本・世界の有力機関との人事交流・協働を行い、アカデミアと実践との両面のネットワークを強化し、世界的な研究拠点、人材育成拠点、実践拠点となる。

【協働のスキーム】 国立感染症研究所・国立国際医療研究センター(国立健康危機管理研究機構)、国立保健医療科学院、国立病院機構災害医療センター、厚労省 DMAT 事務局(Headquarters)、国際協力機構 JICA、基幹災害拠点病院、都道府県庁・保健所・自治体、厚労省等省庁、WHO(世界保健機構)、UNDRR(国連防災機構)等国际機関、世界の有力大学等(予定を含む)と、人材交流や共同の研究・人材育成・活動を緊密なものとしていく。

【研究・活動領域】

- 健康危機管理のためのインテリジェンス
- 健康危機管理のための実装科学
- レジリエントな社会づくり
- 健康危機への備えの強化
- 災害医療、災害公衆衛生、感染制御
- クライシス・リスク コミュニケーション
- 健康危機管理のためのリスクリング
- E B P M(Evidence-Based Policy Making)
- その他、健康危機管理に関わる領域

【人材育成】

健康危機の対応・備えに貢献する人材、科学力と実践力を併せ持つ人材を育てる。

(当センターのプログラムは広くから受講可)

【大募集】 関心のある方、門を叩いてください。

健康危機管理において：

- 危機対応で活躍したい
- 高度な分析力・研究力を高め貢献したい
- グローバルに活躍したい
- 平時から備えを強化したい
- 社会のレジリエンスを強化したい 等

やる気のある者、来たれ！ 道は必ず拓ける！

©2025 年度入学より当センター新分野にて院生募集

健康危機管理の研究・人材育成の推進

災害など命を脅かす危機の多発化・大規模化

→ 「ヘルス・セキュリティ」の強化が社会の中心的課題に

(健康の危機管理、健康の保障)

WHO, 2021

災害多発国・日本が推進することに大きな意義。世界の危機管理研究のハブに

- 医学・医療の枠を超えた学際融合に基づき、健康危機管理の理論とエビデンスを生みだし
- 国内外への効果的な実装により、あらゆる災害への準備力(Preparedness)・対応力(Response)・復興力(Resilience)を強化

オールハザードアプローチ 領域統合・リスクマネジメントの手法には危機の種別を超えた共通性がある

医学医療の枠を超えた
総合知が必要

新たなジョイントにより新地平を開く

公衆衛生学・医学医療・医生物学・法学・防災学・経済学・社会心理学等

3つの重要領域をカバーする高度人材
(研究者・ストラテジスト)を養成

感染症
パンデミック
新興・再興感染症
AMR(薬剤耐性菌)

CBRNE災害*

*化学・生物・放射性物質・核・爆発物などによる災害・人災・大事故

大規模
自然災害
サイバーテロ

リスク評価

ハザードの特定・特性評価・リスク判定
・緊急時対応 ・危機のインパクト評価
・地域・集団の脆弱性評価と復興力(レジリエンス)向上

リスク管理

エビデンスに基づく実践・評価・改善
・多部門に及ぶ危機管理実践理論とシステム設計
・総合知(健康・行動・経済等)に基づく危機対応施策

リスクコミュニケーション

・ステークホルダーや市民との危機時・平時の効果的な情報共有・発信法

研究開発を
人材不足を解消
実践人材

牽引人材



官僚、
政策ブレーン



研究者

実践人材



公務員



医療スタッフ

<計画>

- 世界・国をリードする研究者とストラテジストの養成
- 社会健康医学系専攻の入学定員増(R8年度)
- e-learning等を活用し、全国でリスクリング